

令和元年度図書館協議会 議事録

日時 : 令和元年 11 月 26 日 (火) 午後 2 時～午後 3 時 50 分

場所 : 図書館 5 階多目的ルーム

出席者 : <委員>

平井丈夫会長 (市ふるさとづくり推進連絡協議会会長、富山市社会教育委員)

中村哲夫会長代理 (元神戸学院大学教授)

赤川雅和委員 (元富山県立図書館長)

大割範孝委員 (北日本新聞社 編集局次長兼文化部長)

高島桂二委員 (水橋中学校校長)

高野知代委員 (富山市立図書館よみきかせの会 副代表)

土肥祐子委員 (声のライブラリー友の会 会長)

古木襟子 (公募)

堀るみ子 (市小教研 国語科部長)

渡邊祥治 (公募)

※欠席 岡本達也委員 (市 PTA 連絡協議会特別委員 良書をすすめる会 会長)

事務局 : 浅野館長、高橋副館長、清川副主幹、山崎副主幹 (調査係長)、瀬口資料係長、
吉岡読書推進係長、中村管理係長、新保主査司書

議事録 (要約)

< I 決算・予算の状況及び主な事業について >

(委員)

令和元年度予算について、平成 30 年度に対して蔵書充実事業費、音と映像資料充実事業費が減額になっている。図書館のコア業務であるため、わずかでも減額は望ましくない。図書館から市議会等に訴えることができるような仕組みを作ってほしい。

市議会からの質問について資料に記載されていないが、議会で質問があったか知りたい。

国立国会図書館との連携は極めて重要である。国会図書館所蔵資料について、レファレンスでの活用を推進してほしい。

市議会の議員を牽引していくような資料充実をはかってほしい。

(事務局)

蔵書充実事業費については、全体では減となっているが、図書購入費自体の金額は減っていない。

市議会からの質問については昨年 6 月以来受けておらず、今回報告する内容はなかった。

(委員)

図書館交流行事の予算について、予算のどの枠に入っているか。

先の中村委員からの質問を受け、図書購入費が減額になっていないのであれば、予算の表の中にそのように明記した方がいいのではないか。

(事務局)

図書館交流行事予算は、⑦知を深める市民交流推進事業費に含まれる。

(委員)

2階ロビーの最大定員は何名程度か。

(事務局)

2階ロビーは、椅子を最大数並べて200弱。ライブラリー&ミュージアムコンサートの参加人数は立ち見込みの人数である。

(委員)

2階ロビーで開催するイベントが、図書閲覧の迷惑にはなっていないか。図書館利用者の反応について知りたい。

(事務局)

現在のところ、特に大きな苦情はない。コンサート等、音が響くイベントもあるが、天井のルーバーが音を拡散させるような造りになっていることやエスカレーターの音で吸収されること等から、上階への影響は大きくないと考える。また、リビングのような図書館というコンセプトで多少の雑音はご理解いただいております、静寂を求める利用者には閲覧室の利用をご案内するなどして対応している。

<II利用者等からのご意見などについて>

(委員)

利用者アンケートについて、「10代からの回答数が減少した」ということだが、アンケート期間中の10代の利用者が減少したということか。

(事務局)

アンケートは毎年同時期に行っているため、利用者数ではなく、回答率が下がったものと思われる。

(委員)

富山市民意識調査結果の図書館利用頻度について、60代、70代、無職のグループの「ほとんど利用しない」「利用したことがない」の数値が思っていたより多いことが気にかかる。退職後の過ごし方として図書館を訪れることを想定していたが、意外であった。このことについて、今後、何か対策を考えているか。

(事務局)

特に年代を意識した事業は行っていないが、来年度以後の事業で、できることはないか考えていきたい。

(委員)

児童の図書離れが気になっている。子どもたちにもっと本を読んでもらえるような取り組みはあるか。

前は本館を利用していたが、駐車場がなく、公共交通機関を使わなければならない。本を持って行って、本を持ち帰るということが、私のような高齢者にとってはつらかった。最近分館によく行くが、分館には新しい本は少ないように感じられるため、読書離れが加速するのではないかと危惧している。また、点字本の種類も少ないように思う。

(事務局)

現在、第4次富山市子ども読書推進計画の作成中であり、いかに子供たちに本に親しんでもらえるか考えているところである。パブリックコメントの募集もしている。

分館の蔵書については、一つの分館だけでは少ない蔵書であるが、本館や他の分館から図書を取り寄せて利用することができ、窓口で予約や図書に関する相談を受け付けている。

(委員)

私はよくインターネット予約をして地域の分館へ本を取り寄せしてもらっている。こういう方法もあるということをもっとPRしてはどうか。

(委員)

高齢者の中には、パソコンやスマートフォンを利用しない人も多い。図書館に行って、背表紙を見て探す方が多い。高齢者向けの雑誌が少ないし、字の大きい本も少ない。身体の不自由な人も含め、図書館利用に障害のある方にも読書が楽しめるようなプラットフォームを整えてほしい。

(事務局)

窓口で本の取り寄せ相談等行っており、パソコンやスマートフォンを使わなくても取り寄せることができる。また、増加図書目録を毎月発行するなど、新刊の案内にも努めている。

また、読書バリアフリー法が施行され、取り組みが始まりつつある。今後の動きを見守っていただきたい。

(委員)

学校図書館の管理、運用が難しくなっていると感じる。市立図書館として、学校図書館や学校司書に対して講習会を実施するなどサポートを行い、児童の読書の機会を広げてほしい。

(委員)

学校司書と市立図書館司書の連携を図ってほしい。

特に、図書館で行われているイベントのチラシ等が学校図書館に届いていない現状があり、学校図書館を通じた児童へのPRを行ってほしいと考える。射水市図書館には館内に学校司書の部屋があり、学校の教科書も置かれている。よみきかせの会の活動で教科書を参照したい時もあるが、富山市立図書館には置いてない。

(事務局)

学校司書との連携が十分でないことは、当館の弱みであると考え。現在の連携としては、子供たちに必要な本を学校司書に当館に借りに来てもらい、まとまった数の本を貸し出す団体貸出を行っている。その際に窓口で学校司書から相談があればその場で回答を行っている。しかし、学校に出向いてのサポートは人員的にも時間的にも難しいと感じており、今後の課題である。

<Ⅲ図書館の運営評価について>

(委員)

「委託 15 館」とあるが、どこに何を委託しているのか。

(事務局)

窓口業務を本館・八尾東町分館はホクタテ、駅南・こども図書館は紀伊國屋書店、岩瀬分館を除く 14 分館はテンプスタッフフォーラムに委託している。委託は平成 19 年より順次進めてきた。岩瀬分館・山田図書館・細入図書館は学校図書室と併設しており、学校図書館の管理も市の嘱託職員が行っている。

(委員)

除籍された図書の処理の流れについて知りたい。また、図書のリサイクルは、本館のみの実施であるか。

(事務局)

情報が古くなったり、汚破損があったものを除籍している。除籍した図書は、軽微な汚破損であれば本館のリサイクルコーナーに配置している。リサイクルコーナーは毎月第一木曜日に設置。全館分を集めて本館で行っているため、分館では行っていない。児童図書で汚破損が軽微なものについては、一部学校図書館にリサイクル図書として供している。どちらの場合も、IC タグ等が鳴動しないよう処理し、一般図書のリサイクル図書についてはリサイクル図書のシールを貼付している。処分する図書については、古紙回収に出している。

(委員)

小学校 2 年生までの児童については、図書館に行ったり、読み聞かせにきてもらったりと、図書館と手厚く結びついていることを感じる。また、4 年生時にもガラス美術館・図書館の見学事業があり、訪れるきっかけになっていると感じる。反面、読み切ることが出来ない子や絵本から幼年童話・文学に移行できない子が多いと感じている。サポートするのが学校司書の役割だと思うが、雇用形態が兼務、短時間勤務であり、子供たちが学校司書と連絡とれる時間がほとんどない。

子どもたちの中に、スマートフォンの画面操作に慣れ、本の薄い紙を「めくる」行為が苦手な子が増えているように思う。

市立図書館には、学校司書へのサポート事業として講習会等の実施検討を求めたいのと同時に、2 年生を過ぎても手厚く読書指導を行えるような取り組みを支えていただけよう求めたい。

(委員)

子ども読書推進活動に関して、中学年～ヤングアダルト世代に図書館を利用してもらえよう、本選びの助言や学びのサポートを求めたい。

(委員)

視覚障害者向けサービスに関して、著作権法の改正や読書バリアフリー法の制定を受けサービスの利用状況や提供状況は変化したか。また、令和 2 年度の富山市立図書館開館 50 周年に向け、記念事業等の企画を行っているか。

(事務局)

現在のところ、障害者サービスの利用状況に大きな変化はない。今後、国立国会図書館ネットワークに加入するなど整備していきたいと考える。また、視覚障害者以外の読書に障害のある人に対するサービスについても今後拡充していきたい。

50周年記念事業については、次年度予算が確定していないため発表できる段階にない。

(委員)

富山大学に勤めているが、年々、県外からの学生が増加しているように感じる。大学入試の競争率も上がっていると思われ、自ら本を読み、データを集め、論理的に考える人材の育成が必要になる。子どもの読書力をつけることが、市民力、県民力につながると考える。図書館だけでなく、教育全体の中で考えていくことが重要である。また、社会のグローバル化の中で、英語を扱う力もつけなければならぬため、多言語教材の充実も必要である。

<Vその他（意見交換）>

(委員)

キラリ入口にあるベンチにぶつかって怪我をした人がおり、対策が必要と思われる。

(事務局)

キラリを管理しているキラリ A 棟協議会で協議したい。

(委員)

蔵書充実事業費等について、同じ人口規模の他自治体や他館との比較分析ができればいいかなと思う。

先進図書館見学等の報告など、報告項目の充実をはかってほしい。

にぎわい創出のみでなく、中村委員の意見にもあった学力の問題、高齢者へのサポート、児童の読書推進などさまざまな要素をもって検討し、計画を立ててほしい。

(委員)

児童の学力に関連して、日本語の語彙、読む力を育てることを重視したい。昔ばなし等をよく知らない子どもが増えている実態がみられ、10代の子どもたちに対して、本との出会いに役立つための図書館であってほしい。

(委員)

自国語について深く学べば、外国語にも興味が出てくると考える。その逆も然り。

以上